

## 見積もりのしかたを考えよう！

算数 第4学年  
能登町立宇出津小学校

### 1 事例の概要

全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査の分析の結果、本校では基礎的・基本的知識・技能の習得は概ね良好であるが、知識・技能を活用する力が不足しており、文章を読み取る力、情報をもとに予想する力、考えをまとめて記述する力が課題となった。そこで、今年度は「書く活動」を中心として「活用力」の育成に取り組んでいくことにした。

研究仮説を「各教科において、知識・技能を活用する場面で、ノート・ワークシート上に、自ら記録、要約、説明、論述などの書く活動を行うようにすれば、めざす子どもが育つであろう」と設定した。そこで、算数科では、「記録・要約・説明・論述」の具体化として、ノート・ワークシートで、課題・問題→自力解決→学びあい→まとめ→練習の学習過程の中の自力解決場面で、自分の考えを、絵や図、文・表などで表すことを重視して取り組んだ。また、単元末に「学習レポート」を書くことによって学習内容の習熟と整理・要約して書く力の育成を図った。

### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

概数や概数を用いた和差積商の見積もり方を理解し、目的に応じて概数を用いたり、見積もりをしたりすることができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 指導法の工夫

- ・自分の考えを絵や図、表、文で書く力の育成
- ・単元末における学習レポートの作成
- ・コースの実態に応じた課題の設定
- ・コースの実態に応じた発展学習や補充学習の工夫
- ・学習を振り返ることができるノート指導
- ・児童の学習意欲を喚起するための導入及び素材の工夫

##### ② 算数的活動の工夫

- ・自分の考えを文で書く場の設定
- ・児童の身近な日常生活から導入や課題を設定

##### ③ 学習定着のための工夫

- ・単元末に発展学習を設定
- ・児童の実態に応じた家庭学習の工夫
- ・少人数教室の環境づくり

### B-1 指導上の工夫

### 3 指導の実際

学習活動	時間	教師の働きかけと予想される児童の考え	支援(☆) 評価(◎) 評価方法(□)
1. 課題をつかむ	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストの中から自分の買いたいものを選びだいたいいくらになるかを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     目的にあった見積もりのしかたを考えよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストを提示する。</li> <li>「見積もる」＝「見当をつける」「たし算の答え」＝「和」ということを確認する。</li> </ul>
2. 課題を追求する	30	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">&lt;だいたいいくらになるかな&gt;</p> <math display="block">\begin{array}{r} 172 + 189 + 137 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \downarrow \\ 200 + 200 + 100 = 500 \end{array}</math> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">お姉さん</p> <p style="text-align: center;">&lt;「1000円でたりるかな?」&gt;</p> <math display="block">\begin{array}{r} 145 + 290 + 428 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \downarrow \\ 200 + 300 + 500 = 1000 \end{array}</math> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">お母さん</p> <p style="text-align: center;">&lt;「1000円をこえるかな?」&gt;</p> <math display="block">\begin{array}{r} 246 + 375 + 518 \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \downarrow \\ 200 + 300 + 500 = 1000 \end{array}</math> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概数にする方法には、四捨五入があることを確認する。</li> <li>お姉さんとお母さんはどのような考えで概数にしているのかを、ノートに書くように促す。</li> <li>概数の表し方に、四捨五入のほかに「切り捨て」「切り上げ」があることを知らせる。</li> </ul>

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 指導法の工夫

児童アンケートの結果、「自分の考えを書いたり、自分の考えを絵や図で表したりすること」ができるようになったかという問いでは、「できるようになった」「少しできるようになった」を合わせると90%近くになった。これは、書く視点を明確にして、書く形式を決めたことによって、書くことが苦手な児童の書くことに対する不安を軽減したからではないかと考える。

##### ② 算数的活動

上記と同様に行ったアンケートでは、「書くことが好きになった」と答えた児童が半数をこえた。身近な日常生活から課題設定などをしたことで抵抗なく学習に取り組めたと考える。

##### ③ 学習定着のための工夫

少人数学習室を固定化できたことにより、課題の提出、座席、掲示など少人数学習室としての環境を整えることができた。

#### (2) 課題

絵や図、文などで表すことはできるようになってきたが、それをもとに説明する力、発表する力が不足しているため、発表の型を作りそれをもとにして説明する力をつけるなどの工夫が必要である。また、発展コースにおける発展問題の内容、指導法をさらに工夫し、児童の「活用力」の育成を図っていかなければならない。